

PDA 四国高校生即興型英語ディベート交流大会 2019

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年10月13日（日）9:45-16:00

会場：香川県立高松高等学校

参加校：3校（香川県立高松高等学校、愛媛県立松山東高等学校、徳島市立高等学校）

参加者：生徒17名、教員10名

スタッフ：PDA スタッフ、PDA 教育認定ジャッジ、九州大学

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

台風19号の影響で荷物の不在等ありましたが当日は快晴の中、無事3校の生徒たちが集い開催の運びとなりました。開会式では、会場校である高松高校の出射校長先生より、「他校の生徒と交流する機会はなかなかないと思うので、ぜひ積極的に仲良くなりながらディベートを楽しんで欲しい」とエールが述べられました。

次に、PDAディベート推進委員長である大賀より、参加学校紹介、ルールの復習、POIの確認を行いました。その後、メモをとりながらモデルディベートを見学し、ディベートの雰囲気を再確認後、他校の生徒とチームを組んで行うミックスディベートの対戦表が発表されました。



出射校長先生開会の挨拶



ルール説明を聞く生徒

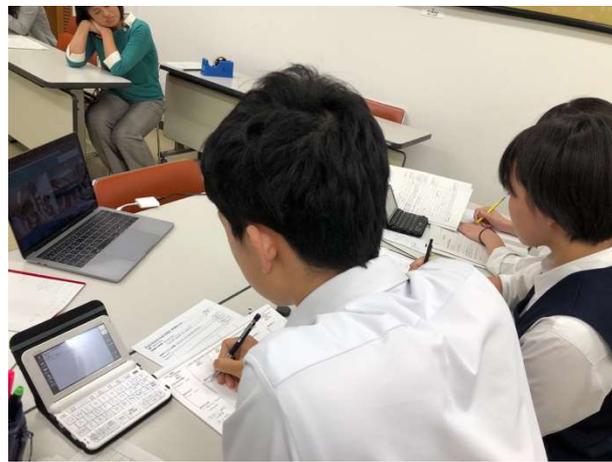


モデルスピーチのフロー取り

ミックスディベートのお題は「**Single-sex schools are better than co-educational schools. (共学より男子校または女子校のほうがよい。)**」でした。初めて一緒にチームを組むメンバーでのディベートにはじめは緊張した雰囲気もありましたが、共学と男子校・女子校それぞれのメリットやデメリットをアイデア交換する中で少しずつ緊張も解れていきました。ディベートでは、自分たちの学校の様子を例に出すなど活発な議論が行われました。



チームメイトとの準備時間



PCからの遠隔スピーチを聞く様子



POIも活発です



PC越しでも握手は欠かさない

次はいよいよ表彰の対象となるラウンドの始まりです。第1ラウンドのお題は「**Fast food should be banned. (ファストフードを禁止するべきである。)**」でした。普段ファストフードを食べることも多い生徒たちにとって身近な論題だったため、例をたくさん用いられた説得力の高いスピーチが多く見受けられました。試合前にテーブルジャッジよりPOIを遠慮なくするように促したところ、1つのスピーチに1つ以上のPOIを打つチームも見受けられ、非常に活発で白熱したディベートとなりました。



各チームの準備時間



相手の目をしっかり見てPOI

お昼休憩を挟み、続く第2ラウンドのお題は、「***We should prohibit the elderly from driving cars.***（高齢者の自動運転を禁止すべきである。）」でした。日本では日々議論されているテーマであり、そのため多くの生徒が一度は考えたことのあるテーマでした。論題を見た生徒は、今まで考えてきたことをジャッジにわかりやすく伝えるためにはどうしたらよいか、相手の反論に備えるにはどのように立論をすればよいかなどについて準備時間にチームメイトと相談し、肯定する理由/否定する理由を説得的に述べるだけでなく、相手のチームのメリットがいかに小さいかなどという視点から立論を行っていた生徒も見受けられました。



接続確認をします



遠隔のディベート相手に手を振って挨拶

次に、ジャッジから「もう一度ディベートを見たい！」と推薦された生徒によるエキシビジョンディベートです。お題は「***Term-exam should be abolished.***（期末テストを廃止すべきである。）」でした。今大会で初めて会う他校の生徒と一緒にチームを組むということもあって、ラウンド前にはにこやかな挨拶が両チーム内で交わされました。期末テストが当たり前にある生徒にとって、それを廃止する理由を考える賛成側は苦戦していた模様ですが、チームで協力して両チームとも活発にスピーチの準備を行っていました。POIも飛び交う大変活発なラウンドとなりました。



POI 立ちます



POI 聞きます



スピーチ頑張ります



エキシビションでは遠隔で選ばれた生徒も一緒に

エキシビションディベートが終わると、チェアを務めた先生より勝敗の発表があり、会場から健闘をたたえ、両チームへ大きな拍手が送られました。聴衆の多数決では賛成側が勝ったということになりましたが、チェアジャッジの先生は否定側を勝ちにしており、大変接戦ないい試合であったことが伺えます。

閉会式では表彰式の後、高松高校の出射校長先生より「4ラウンド即興で英語スピーチをするのは大変だったと思われるが、これからも頑張って英語ディベートのみならず様々なことにチャレンジして欲しい」と労いのお言葉をいただき、PDA 四国交流大会 2019 の幕が閉じました。



出射校長閉会の挨拶



生徒さんの集合写真

【表彰】

〈エキシビションディベータ賞〉

PM ————— (徳島市立)

MG ————— (高松)

PMR ————— (高松)

LO ————— (松山東)

MO ————— (高松)

LOR ————— (高松)



〈チーム賞〉

1位：高松A、2位：高松B、3位：松山東B



第一位：高松A



第二位：高松 B

〈ベストディベーター賞〉

- (徳島市立)
- (徳島市立)
- (松山東)
- (松山東)
- (高松)
- (高松)
- (高松)
- (高松)



第三位：松山東 B(PC 越しに表彰)



〈POI 賞〉

- (徳島市立)
- (松山東)
- (高松)
- (高松)



参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- いろいろな知識や考え方を身につけることができた良い機会だと思いました。個々で得たものは、学校や、将来の仕事で、すごく大切なものになると思いました。自分に足りないものを再確認することができ、これからの成長に役立てていきたいです。【徳島市立】
- 貴重な体験ができた。英語をうまくつかえなかったのもっと勉強したい。【徳島市立】
- 日頃から準備をしてきている人たちには勝てないと感じた。けれど、初めダメダメだった自分が少しずつではあるけど、上達していくのを感じられて楽しかった。けど、周りの人たちにまだまだ負けていたのは少し悔しかった。【徳島市立】
- こういう経験をしたのは初めてだったので、凄く良い経験になりました。次回こういう機会があれば又参加させていただきたいです。【高松】
- 1ヶ月間練習してきた。7月の体験会では全然話せなかったが、今は多く話すことができるようになってきたと思う。【高松】
- とても良い経験になり、楽しかったです。また絶対参加します。【高松】
- 同じ意見でも人によって表現がちがっていて、面白いと思いました。素敵な表現をいっぱい学べて楽しかったです。もし来年機会があったら次はもっとスマートに伝えられるようにがんばりたいです。【高松】
- 自分の力を試すことができた【高松】
- とても楽しかったです。本日のために、グループ全員で毎日放課後に集まって練習してきたので、その成果が出せ、かつ色々な高校の生徒のよいディベートを吸収することができたので、とても楽しかったです。ぜひ、全国大会に同じメンバーで参加したいです!!!【高松】
- 前は、本当に1分も話せなかったけれど、今日はたくさん話せて良かったです。もっと説得力をつけたいです。【高松】
- 軽い気持ちで始めたディベートでしたが、考えていたよりずっと奥が深いし、即興という迫られた状況の中で話す経験は自信になりました。英語の力1つだけじゃないから面白い！序行でやらないのは勿体ないなと思います。ありがとうございました。【高松】
- ディベートへの興味がすごく高まりました。グローバルな世の中になっていく社会で、ディベートのような自分の意見に合理性や説得力をもたせて上手く伝えることで相手を納得させる能力の重要性と難しさを学ぶことができました。【高松】
- 自分の行ったディベートに対して、評価をもらえるのは貴重な体験だと思った。自分のいいたいことをそのまま相手に英語で伝える難しさを感じた。語彙力がもっとほしい。「POI」使いたかった。【高松】

教員の声

- 英語を話して伝える楽しさ、興味深いトピックについて仲間と考えアイデアを出し合う楽しさ。まさに高校教育が求める思考力と判断力と表現力を鍛えるモノであった。すばらしい!!!【徳島市立】
- 即興型英語ディベートは、事前に時間をかけて準備する必要がなく、授業にも取り入れやすいと感じました。ある程度の英語力が前提にはなりますが。。何より生徒たちが、一生懸命考え、伝えようとしている姿がすばらしかったです。ありがとうございました。【県教委】
- 遠隔で参加した生徒たちは、他の参加者に圧倒されたり、感心したり、大きな刺激を受けたようでした。また、ジャッジからのコメントが本当に大きな学びになったと思います。本日は本当にお世話になりました。【松山東】

保護者の声

- 高校生たちがそれぞれの立場にたって英語で主張を練り広げていくところが素晴らしいと思いました。ジャッジの方々がとてもいねいにアドバイスして下さっていたところもすばらしくまたとないいい機会に参加させていただいたことを感謝しています。【保護者】
- ディスカッション、フィードバックの形成が非常によくできていて、議論が深く、学習をファシリテートする様な設計になっていることに感心しました。【保護者】

